

会 誌

第四十八号

平成28年12月

大阪市立大学大学院医学研究科
分子病態薬理学教室 同窓会

齢をとったら

山本 研二郎

薬理学教室の“むかしばなし”をみていたら、昭和 59 年に「齢をとったら」というタイトルで一文をのせている。その時は仮定の話として書いているのだが、実際に齢をとるといろいろ不都合なことがおこる。

一番不都合は「もの忘れ」である。例えば、何か物を頂いた。お礼の電話をしたかどうか。「まだ」なら失礼だし、「また」なら変な印象を与える。手元にメモ帳を置いていて、電話の度に書き留めるようにはしているのだが、それが「おかしく」なるのが時々おこる。5 才年下の家内にたしかめても、大してかわらないような気がする。

家からタクシーで 10 分足らずのところに介護老人施設が新設され、息子が購入してくれた。2 軒つづきの個室だが、ベッド、洗面所、机、テレビといささか殺風景である。時間になれば食堂——集会室を兼ねてきれい——に集って食事。アルコール類は誰も飲んでいないので、あとで部屋へ戻ってから飲むことにしている。7 時頃またタクシーでこっそり帰ってくるが、汚くてもやはり我が家がよい。

今年の夏は特別暑かったせいか、体調をくずした。食欲が減る。冷たい飲み物の量がふえる。外出しない。もっぱらテレビをみるか、ゴロ寝していた。平均寿命が過ぎているので、これで良いかと居直っているものの、いささか心淋しかった。

年賀状を書く時期になると、喪中のため遠慮するという知らせが舞い込む。ほとんどは、まあまあの齢やと思うが、中には胸の痛む知らせがある。

さて来年はどんな年になるでしょう。なるようにしかならんのでしょうか、皆さんよいお年を迎えてください。

近況

今年の6月の洽楽会の集まりの時にもお話しいたしましたが、平成28年4月に四天王寺大学・短期大学部・大学院の学長を拝命いたしました。平成26年に大阪市立大学を退職して四天王寺大学教育学部に移り、主に養護教諭の養成に携わっておりました。もちろん文系の先生方に囲まれて少しだけ優雅にドブプリと文系の先生の生活をしておりました。しかし、去年の夏ころに学長就任の打診があり、「困ったことになった、どうしようか」と悩んでおりました。悩みの元は、四天王寺大学のことを十分に承知していたわけではありませんし、今までのちょっと優雅な暮らしを止めて、また齟齬（あくせく）としなければならぬことです。でも、断るのも難しい状況でしたのでお引き受けいたしました。

一番面食らったことは、スケジュールが自分で組めないことです。他人任せでどんどん予定が詰まっていきます。予定の大部分は会議です。今まで何が一番嫌いだったかといえば会議に出ることです。市大での会議はルーチンワークのように昨年度のスケジュールをこなすための会議が中心でした。会議をやってもやらなくても何も変わらず、変えられないことばかりでうんざりすることが大部分でした。今はそのうんざりする会議を居眠りもせずに真面目な顔をして聞いております。真面目な顔をしていると自分で思っている理由は、真剣に聞かないと状況が分からないことが多いからです。夏休み前までは現状を理解するのが精いっぱいの状態でした。最近になり少しは状況が把握できてきました。その所為でしょうか少し口煩くなって来た様に自分でも感じます。必要最小限の発言に止めて会議の時間を極力短くするように黙っていようと努力しておりますが、まだまだ達人の域には程遠いのが現状です。

今までの長い教員生活で一番嫌いなことは会議でしたが、二番目にきらいなことは講義でした。聞かされる生徒はもっと嫌だったと思います。四天王寺大学に来てから、講義もまんざらではないと感じております。特に最近では、生徒の顔を見て授業をするとホットして、授業中の真剣な生徒の顔を見るのが楽しく感じられます。

洽楽会の先生方からも良くお話が出ておりましたが、私立大学はオープンキ

キャンパスと入学試験の種類と回数が多彩です。学長としてこれらの行事に出席することも重要な仕事になります。オープンキャンパスと入学試験の種類と回数が多彩です。学長としてこれらの行事に出席することも重要な仕事になります。オープンキャンパスは年間 10 日あり、入学試験は多種多様で年間 15 回、そのうち 4 回は 2 日間あります。あの手この手を使い年が明けるまでに多くの内定者を決めて困り込みをしています。近年の少子化は色々な情報からよく理解し知っているつもりでございました。しかし、現実が目の前に迫ってきていることを実感させられると中々辛いものです。

白内障手術の顛末記

2～3 年前から学生と教室内で会っても眩しくて顔がよくわからないことや、室外ではなんとなく顔の輪郭でしか判断できない状態でした。また書類を見ても室外はいうに及ばず室内でも蛍光灯の元では眩しくて字が非常に見えにくく、特に細かい字は判別できず、大きな拡大鏡が必要になる状態でした。最近新聞で高齢者による車の運転操作ミスによる事故が報道されますが、他人事ではなくなりました。夜間の運転はよく見えて楽ですが、昼間の運転は非常に眩しくて見え難いので偏光サングラスをかけないと運転できませんでした。2012 年 9 月に突発性難聴に罹り大量のステロイド治療を受けたことにより白内障が早く進んだものと思われます。手術前の見え方は、淡い灰色のすりガラスを通して見るため色彩はくすみ、コントラストが悪いものです。白黒のコントラストも悪く小さな文字は読みづらく、日中の外の景色はいつも霧がかかり、眩しく、人の顔も判別しにくい状態でした。室内では蛍光灯がまぶしく、テレビの画面、コンピューターの画面も見にくく、携帯電話の液晶画面も見にくいので苦労していました。反面、夜になると楽によく見えしました。眼科の主治医に相談すると白内障が進んでいて手術が必要かもしれませんとのことで検査を勧められました。5 月末に検査した結果で手術が必要と言われましたので、入院手術日を 8 月初めに決めました。

<入院日のこと>

今年の 8 月に大阪市立大学付属病院の眼科に白内障手術のために入院しました。夏休みで大学の予定が空いている時に手術の予定を入れて頂きました。朝

の 9 時半に病院 1 階入院受付に行くと、既に多くの患者が入院の受け付けの順番を待っていました。約 1 時間後に入院手続きを終えて書類を持って 1 2 階西病棟に行き事務の方に手渡すと、入院に関する説明後に 4 人部屋に案内されました。看護師から手術する側の目の確認があり「右眼ですね」と尋ねられたので、左眼に 2 日前から抗生物質の点眼薬を点眼している事を伝え、いいえ左眼ですと訂正して確認していただきました。15 時頃、検査と手術の説明を女医さんから受けましたが、手術で入れるレンズには色々な種類があることの説明があり、読書用の近点のレンズがあることや、裸眼の視力と同じようになる遠点に焦点の合うレンズや、1～2 m に焦点が合うレンズがあることなどなどを聞きました。でも日常生活で一番楽なレンズが良いということで「裸眼の視力と同じようになる遠点に焦点の合うレンズ」に決めました。その日の夕方、チームの上の先生が来て、左眼の手術を明日に行うとの説明がありました。手術後は約 1 週間ほど洗髪・洗顔が出来ないので入浴（シャワー）し頭も洗いサッパリとしました。暑さの厳しいときに頭を洗えないととても辛いことになるので、冷房付きの建物で汗などかかずに過ごせることは大変助かります。患者である私がやることは一日 4 回、指定された順番に時間を空けて 3～4 種類の点眼薬を左右の目に点すことです。消灯は 22 時で、朝 6 時に明かりがつき、看護師が巡回してきて点眼の確認、検温と血圧測定をします。朝 8 時に朝食が配膳されます。和食と洋食のいずれかを選べます。洋食はパン 3 個と飲むヨーグルト、おかずが 2 品です。病院の建て替え前の入院食と比較すると雲泥の差があり、現在の食事は保温されて美味しく良く出来ております。入院中は完食でした。

<左眼の手術日のこと>

手術の当日は、朝 6 時に病室内に明かりがつき、看護師が巡回してきて点眼の確認、検温と血圧測定をします。いつも通り 8 時に朝食が配膳されます。9 時ころから 15 分間隔で麻酔薬と散瞳薬の点眼をし、抗生物質の点滴をし、深部静脈血栓症予防のストッキングをはき、10 時 40 分の手術予定を待ちます。10 時半に看護師付き添いで入院している同じ階の手術室に移動します。手術室の手前でバーコードと氏名で本人確認と手術する眼を確認し、さらに 2 名の看護師で間違いがないかを確認します。手術室の看護師に付き添われ手術室へ移動し、電動の椅子に腰かけ、手術準備を含めて 30 分ほどで終了しました。手術時間は 10-15 分ほどです。眼が圧迫されるような重い痛み？（大したことはないが痛いのは少し異なる）が数回ありました。おそらくレンズが挿入されて終わりころに色彩が急に色鮮やかになります。術後は看護師に付き添われ歩いて病室に帰れます。少し緊張したのか手術直後の血圧が上がりました。手術した直後という感覚はなく、昼食を普通に美味しく食べることができました。当然ですが

左眼は術後の眼帯をしているのでどの様に見えるのかは分かりません。片目（右眼）ですが入院生活に支障はありませんでした。

<手術後翌日の観劇>

今日はいよいよ眼帯を外して手術した左眼でどの様に見えるかが分かる日です。朝 9 時にプラスチック製眼帯を外すと左右で見える色彩が天と地ほど違い左眼が鮮やかに見えることの驚きと感激で言葉を失うほどでした。でもピントは合わないし、まだぼやけていますが色は鮮やかでビックリしました。若い頃はこんな色を見ていたのだと感激し、手術をまだしていない右眼で見える景色と比較すると、右眼では淡い灰白色を全体にかけたコントラストの少ない色合いで、薄紫色が薄灰色に見えます。森村康昌の展覧会チケットの鮮やかなオレンジ色は少し灰色にくすんだオレンジ色に見え、色彩の変化がよく見えて美しい。左眼で久しぶりに真っ黒（基石の印刷）を見ました。右眼ではくすんだ灰色がかかった黒になります。両眼視で囲碁の「新ポケット手筋 200」を見ると、2 段になっている碁盤の基石の色が、左眼では上図が黒鮮やかに見え、右眼では下図はくすんだ灰色がかかった黒になります。また、突然、焦点が合わずに文字が二重に重なって見えることがあります。視覚中枢でも混乱が起きているのでしょう。

<左眼の手術から 4 日目に右眼手術>

10 時 40 分からの予定が 30 分早くなり、11 時には手術が終わり病室に戻る。正味の手術時間は 10 分ほどでした。左眼のときは緊張して何もわからないままに終わりましたが今回は手術中のことを少しは覚えております。抗生物質の点滴をしながら看護師と 12 階の手術室に移動し、前回と同じ手順で手術室に入ります。電動椅子に腰かけ、EKG、血圧、指先 P02 測定器を付け、椅子が倒されて仰向きになると、肩を幅の広いタオルで包まれ、上に暖かい毛布が掛けられます。暖かで気持ちがよく少しリラックスできます。術野のセッティングが行われ、頭髮と顔の右下が覆われ、その後に右眼が消毒されアルコールでふき取り、上下の眼瞼結膜の消毒後、眼球に多量の液が掛けられます。先生が顕微鏡をセットし、手術が始まります。左眼のときより緊張し冷静でおれません。ゆっくり息を吐きゆっくり息を吸い込む呼吸をして落ち着くように努めましたは何故かドキドキします。左眼のときと同じくらいの手術時間で終了しました。右眼の上部結膜からアプローチして、水晶体から白濁した内容物が吸引排除され、眼が強く圧迫される「重い痛みのような」感じが数回あり、最後にレンズを入れるので再度圧迫感がありました。左眼の時とは違い色鮮やかな光彩が見えまし

た。眼を上下、左右へ指示されたように動かし、正面を見て、先生がチェックして終わりです。手術後は点滴を押しながら自力で歩いて病室に帰れます。左眼のときと同じで、手術後に痛みは全くありません。右眼上に時々コロコロとしたしこりを感じる程度です。夕方にはしこりは少し感じなくなり、翌朝にはほとんど感じなくなりました。その後は痛みもなく快調に過ごせました。

退院日の午前中に視力検査で左右眼ともに視力が 1.2～1.5 で良く見えるようになりました。嘘みたいです。術後の検査で異常もなく、最後に主治医が診察で異常のないことを確認して、無事退院できました。

先生と看護師さんの皆様にとても良くして頂きました。

<後日談>

今年は外の景色がとてもよく見え、色鮮やかな紅葉も十分に楽しむことが出来ました。術後三か月して安定していることを確認してから眼鏡を調製する許可を頂きました。それまでは以前に使用していた遠近両用メガネを使っておりましたが、何かシックリいかず書類を読むとき以外は眼鏡を外しておりました。しかし、会議の時は手元の書類を見たり、話す相手を見たりと遠近両用メガネでないと不便です。11 月に入り眼科で視力検査をしてメガネ用の処方を書いていただき、ようやくピッタリと合った遠近両用メガネを手に入れました。パソコン使用時や、書類を読むとき、会議で使用しておりますが、やはりメガネをしていない時の方が楽です。

教授就任ご挨拶

今年度4月より分子病態薬理学に赴任してまいりました富田修平と申します。改めて同門会の皆様方にこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、香川県高松市に生まれ高松高校を卒業後、香川医科大学（現香川大学）に入学致しました。大学卒業後、生化学講座の市川佳幸教授（現香川大学名誉教授）に師事し、その後、米国国立衛生研究所および理化学研究所にて研鑽を積み、徳島大学に異動後は、免疫学を高浜洋介教授（現徳島大学教授）、そして薬理学を玉置俊晃教授（現徳島大学教授）のもとで教育と研究に従事して参りました。そして平成24年7月より鳥取大学医学部分子薬理学分野を主宰することになりました。これまで、生体の低酸素ストレス応答を基盤とした、免疫・代謝・循環薬理学について研究を進めて参りました。

私は大阪市大出身者ではありませんが、これまでの人生の変遷のなかで市大薬理学との関わりについてご紹介してご挨拶とさせていただきます。

香川医科大学在学中には、薬理学の講義・実習は安部陽一先生と岩尾洋先生にご教授いただきました。今でも覚えているのですが、先生方の講義を拝聴しても自律神経支配にある循環システムの理屈・原理がよく分からず、おまけに薬の名前も覚えられず、当時はまさか将来薬理学の分野に足を踏み入れるとは思っても寄っていませんでした。そのようなこともあり大学院博士課程に進むに当たり、薬理学教室ではなく同じフロアにあった生化学教室の門戸を叩きました。ところが、当時生化学教室で与えられたテーマは生理活性脂質ビタミンAの代謝酵素としてのP450の同定だったので、生化学会では同じ研究分野でご活躍されていた船江良彦先生や今岡進先生にお会いする機会がありました。当時の大阪市大のP450酵素の精製技術は私たちにとって大変参考になりました。学位を取得した翌年にはトロントで開催される薬物代謝の国際学会で発表する機会をいただきましたが、学会開催地に行く前にカルガリーに寄ったときに岩尾先生、船江先生そして今岡先生にお会いして皆さんと一緒にゴルフをしたこともあり、また大学院時代には同じフロアの薬理学教室に伺う機会もありましたが、いつも人がワイワイと集い宴会でもやっているように活気のある安部薬理学教室が印象的でした。

徳島大学に在任中に、香川の時から交流のあった玉置先生のもとで准教授と

して教育研究活動を続けることとなり、分子病態薬理学が毎年主催する研究会にも参加するようになりました。薬理学の学問分野に参加するようになったのはこの時からであり、そのような機会を与えてくださった玉置先生には大変感謝しております。

鳥取大学に着任した時には、所属する薬理学会の部会も近畿部会から西南部会に変わり、市大関係の多くの先生が所属する近畿部会から離れることになりました。鳥取大学医学部は、戦中に旧制官立米子医学専門学校を前身として設立されました。薬理学教室は、九州大学ご出身の田中潔初代教授と第二代の君島健次郎教授が代々主宰されており、そのような理由で西南部会に属していたという話を伺ったことがあります。第三代の佐藤慶祐教授は東北大学から来られましたが、その時の教授選では雪村時人先生と一騎打ちとなったと後に伺いました。私が第四代の教授として赴任した折には、飲み会の席で雪村先生から、「よく仇をとってくれた」と笑いながらお言葉を頂きました。また、鳥取大では徳島大の時から一緒だった今西正樹助教と研究を行っていましたが、実は今西政仁先生の甥にあたる先生です。鳥取大学時代は4年弱と短かったですが、自身で行ってきた研究活動について少し見直す良い機会もあり、またおいしい食材と雄大な自然に囲まれ様々な人との交流や子育てにも有意義な時間を持つことができたので、今では第二の故郷と思っています。

この度、縁あって大阪に参ったわけですが、新しい環境にまだまだ戸惑いを感じつつも、岩尾先生と三浦克之先生によって作られた分子病態薬理学・薬効安全性学教室の泉康雄先生、塩田正之先生、田中昌子先生などの強力なご協力を頂きながら、また7月より前任地の教室員だった松永慎司先生も加わり、少しずつですが新しい教室の立ち上げを進めることができます。また、教室の諸先生方の指導のもと、現在5名の博士課程大学院生が学位取得のため薬理学・薬効安全性学にやってきました。勿論、なかなか新しい体制で教室運営を進めることは容易なことではなく、雑務に追われながら四苦八苦しているのが現状です。時間がかかるとは思いますが、一つ一つ直実にこなして、早く本来の仕事のペースに戻して参りたいと考えています。浅学の身ではございますが、新しい環境のもと研究および後進の教育・育成に一層精励いたす所存でございますので、どうぞご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、治楽会の皆様におかれましては来年も良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

(略歴)

昭和40年	香川県生まれ
平成2年	香川医科大学（現香川大学）医学部医学科卒業
平成6年	同大学医学研究科博士課程修了
平成6年	同大学医学部医学科 助手
平成8年	米国国立衛生研究所 客員研究員
平成10年	香川医科大学医学部医学科 助手
平成12年	理化学研究所免疫アレルギー科学総合研究センター 研究員
平成14年	徳島大学ゲノム機能研究センター 助教授
平成17年	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 准教授
平成24年	鳥取大学医学部 教授
平成28年	現職



御挨拶

本年 7 月より助教として着任しました松永慎司と申します。私のバックグラウンドは薬学で、岐阜薬科大学で修士課程を終えた後、一般病院で薬剤師をしながら鳥取大学医学部で学位を取得しました。学位取得後に、米国テキサス州の UT Southwestern Medical Center 放射線腫瘍学の基礎研究部門、鳥取大学医学部分子薬理学を経て市大薬理学教室の方へ参りました。米国から鳥取大学へ戻る際、富田教授に声をかけて頂き薬理学の分野に入ることとなりました。それ以来、同じ研究テーマにて研究をさせていただいております。これまでの私の研究テーマは研究室を点々としているため様々ですが、一貫して腫瘍関連の研究をしてきました。これが良いのか悪いのか分かりませんが、分野ごとの考え方、やり方を学べたのではないかと思います。ただ、これまで職場、研究室と様々なところを異動しており、学生時代から考えても同じラボ、職場に 4 年以上居たことがなく、こちらへ異動する際も、周囲からもまた異動と言われて来ました。この 10 年で 6 箇所の研究室と職場を経験しており、点々としています。そろそろ少し時間をかけて行う研究を行いたいと思っています。現在の研究テーマは鳥取大学分子薬理学より行っている腫瘍血管の正常化について研究しており、これまでより長く成熟させたものにできればと考えております。また、様々な研究室での経験を還元できればと思います。

これまで私は通勤する際は常に車でしたので、ここ大阪に来て初めて電車通勤となり電車に時間に合わせて出勤、帰宅ということを経験し、着任して半年が経ち慣れてきたとは思っていますが、満員電車には乗りたくないという日々です。やはり研究同様に自由に時間を調節できる車通勤の方が性に合っていると思っています。(田舎者といわれますが)

歴史ある教室の一員として、また、これまでの研究経験を生かして切磋琢磨してさらに成長していきたいと考えています。また、教室の発展に貢献できるよう邁進してまいりたいと思います。今後とも先生方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 22 年に薬理学教室の門を叩いて、早いもので 6 年が経過し、7 年目に突入しました。私は平成 21 年 3 月岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修士課程を修了後、同年 4 月より大阪市立大学医学部附属病院薬剤部に入職しました。日々の薬剤師業務に追われる中、基礎研究への思いを忘れられず、岩尾先生の「来たらええやん」の一言で、平成 22 年 4 月より大学院研究生として受け入れていただきました。



写真：変わらぬ楽しさ、薬理学教室

それから 6 年、人の倍ほどの時間がかかりましたが、平成 28 年 3 月に学位を取得することができました。ご指導、ご支援して頂いた先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

私にとって、この 6 年間は普通に薬剤師として働いているだけでは決して経験することがない、様々なことを経験することができた時間でした。慣れない科研費の申請では、塩田先生や当時大学院生だった田中先生に厳しいご指摘やご意見を頂き、（心の中で）泣きなら申請書を書いたことは今でも忘れません。そして、大の苦手である英語での論文執筆は心が折れそうになりましたが、アクセプトされた時の喜びは格別でした。格別を味わうために、塩田先生の心だけでなく、歯まですり減らしてしまい、申し訳ありませんでした。エピソードを話すときりがありませんが、多くのことを学び、楽しむことができました。

薬剤部で仕事をしながらの研究は正直、大変だったような「気」がします（ご指導して頂いた岩尾先生、三浦先生、塩田先生、田中先生はもっと大変だったと思いますが…）。しかし、薬理学教室のメンバーや雰囲気が好きで非常に居心地が良いから、大変やった「気」くらいで済んでいるのだと思います。そして、現在も未だに薬理学教室に居座っている私がいます。本当に薬理学教室が好きなんだと思います。学位取得はゴールではなく、スタートであることを肝に銘じ、今後も研究を継続していきたいと思っております。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

2年間お世話になった皆様へ

修士2年 大塚 明日香

三浦先生。いつでも優しく接していただいたこと、また、セミナーで私の拙い説明のフォローやアドバイスをしていただいたこと、大変感謝しています。学会発表の後などで、先生からお褒めの言葉をいただく度、本当に嬉しく思っていました。ありがとうございました。

富田先生。お忙しいときでも、常に気にかけてお声がけくださり、ありがとうございました。先生とのお話の中で気づいたことや、学ばせていただいた事がたくさんありました。優しく、時に厳しくご指導いただき、本当に感謝しています。

泉先生。普段お話する機会は多くはありませんでしたが、困った時には忙しくても優しく接していただき、感謝しています。温和な先生ですが、仕事には脇目もふらず一心に取り組まれる姿は、本当に尊敬していました。ありがとうございました。

塩田先生。たくさんご迷惑をおかけしてすみませんでした。忙しくてもいつも気にかけてくださり、時には親身になって相談に乗って頂いた事、本当に感謝しています。実験だけでなく就活に関しても、塩田先生には大変お世話になりました。残り数ヶ月ですが、最後まで変わらぬご指導の程、宜しくお願い致します。

岡先生。優しいだけでなく時には厳しくご指導いただき、岡先生から学ばせて頂いた事もたくさんありました。2年になってからはお会いする機会が少なくなりましたが、いつでも笑顔で優しく接してくださり、本当にありがとうございました。

松永先生。実験に関してだけでなく、就活のことやプライベートなことなど、色々お話してくださり、ありがとうございました。真剣に、時にはユーモアを交えつつ接してくださり、先生とお話するのが楽しかったです。

田中先生。言葉では言い切れないくらい、大変お世話になりました。実験に関することだけでなく、社会人としてのマナーやプライベートに至るまで、本当に多くの事を教えていただきました。田中先生には感謝してもしきれません。卒業まであと数ヶ月となりましたが、まだまだこれからも変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

高橋さん。高橋さんなくしては、ここまで来られなかったといっても過言ではない程、大変お世話になりました。言葉足らずでご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、これまで変わらず接してくださり本当にありがとうございました。

藤田さん。藤田さんの明るい雰囲気に関心していました。また、限られた時間の中でテキパキと仕事をこなしている姿は、本当に尊敬していました。いつでも優しく笑顔で接してくださり、ありがとうございました。

塩谷君。いつも話相手になってくれてありがとう。同期がいない分、塩谷君が来てくれて本当に良かったと思っています。助けてもらったことも色々ありました。先輩として頼りない所もあったと思いますが、いつも変わらず接してくれて感謝しています。

北先生。実験もセミナーも、何でもそつなくこなす先生を本当に尊敬していました。忙しい時でも周囲への気遣いを忘れず、また、いつも真剣に取り組む姿勢からは学ぶことも多かったです。ありがとうございました。

壁井先生。明るく前向きな先生とお話すると、いつも元気を貰っていました。お会いする度に声をかけていただいたり、色々と気にかけてくださったこと、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

西出先生。いつでも熱心に実験や論文に取り組む姿を見て、良い刺激を受けていました。誰に対しても真摯に接する先生のお姿、見習わせていただきたいと思います。ありがとうございました。

薬理学教室に入学してからこれまで、本当にあっという間でした。今まで生きてきた中で一番充実していると思えるくらい、濃い 2 年間でした。まだまだ未熟な私ですが、入学前に比べるととても成長したことを実感しております。楽しい日々ばかりではありませんでしたが、それでも薬理の皆様に支えられたおかげで、ここまでたどり着く事ができました。ここで学んだ事をいかして、来年から社会人として精進していきたいと思います。最後になりましたが、皆様今まで本当にありがとうございました！

新入生紹介

修士1年 塩谷 一史

初めまして。修士課程1年の塩谷一史です。今年の4月から薬理学教室でお世話になっています。

出身大学は近畿大学の生物理工学部で、主に発生工学を学んでいました。卒業研究では絶滅危惧種等の希少動物の保全を目的とした異種間体細胞核移植について研究を行っていました。大学院への進学は当時迷っていたのですが、他分野も含め様々な大学を検討していたところ、薬理学教室のホームページにたどり着きました。そこには様々な心惹かれる文章が並んでいました。がんや抗体医薬に関しての予備知識等もほとんど無い状態で研究室を訪問させていただいたのですが、解らないことは丁寧に説明してくださり、アットホームな雰囲気でありながら研究にはものすごくストイックといった様子が伝わってきました。自分もこういう人になりたい、ここで研究したいと強く思いこの薬理学教室を志望しました。

入学当初は以前の研究室との環境の違いや知識の無さ、実験手技の無さに愕然とし、セミナーではほとんど内容を理解できないなど不安なことばかりでした。しかし現在はこの環境にも慣れ、先生方や先輩方に様々なことを教わり、迷惑をかけていく中で少しずつではありますが、知識も技術も身に付きつつあるのではないかと思います。

また多くの人と接することで、一般常識やマナーなど実験以外でも学ぶことが多く、しっかりした先輩方を見ると自分の至らなさなどを日々痛感し、勉強することばかりです。

現在でも先生方や先輩方には様々な迷惑をかけ叱られることも多いですが、そんな中でもご指導してくださり、研究させていただけることに本当に感謝しています。今後もし迷惑をおかけすること多いとは思いますが、精一杯がんばりますのでどうかよろしくお願いいたします。

第23回市大フォーラム

2016年8月4日（木）、あべのメディックス6階研修室において、市大フォーラムを開催いたしました。御出席者61名、発表演題11題の盛会となりました。
暑い中、また遠方より御参加いただきました皆様方、本当にありがとうございました。
今後も、より活発で有意義な研究会となりますよう、ご指導いただけましたら幸甚でございます。

*** プログラム ***

12:30 開会の辞 富田 修平

座長 大喜多 守（大阪薬科大学）

1, 12:35-12:56

新たなてんかん治療標的分子Kir4.1チャネルの脳内発現に対する抗てんかん薬の作用評価

向井 崇浩 大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室

2, 12:56-13:17

Pharmacological mechanism of nicotine-induced convulsive seizures

Higor A. Iha 大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室

座長 田中 昌子（大阪市立大学）

3, 13:17-13:38

ドラッグリポジショニング手法を用いた新規循環器治療薬の探索研究

座間味 義人 徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床薬学分野

4, 13:38-13:59

ケモカインによるストレッチ誘導性血管平滑筋細胞死の抑制

小澤 健太郎 奈良県立医科大学 薬理学講座

座長 今村 武史（滋賀医科大学）

5, 13:59-14:20

イムノスピントラッピング法を用いたフリーラジカル検出

堀ノ内 裕也 徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理学分野

6, 14:20-14:41

レプチンによる肝糖脂質代謝制御機構とインスリン・レプチン抵抗性改善の試み

宮本 理人 徳島大学大学院医歯薬学研究部 医薬品機能生化学分野

14:41

BREAK

15:00

座長 小渕 修平（兵庫医療大学）

7, 15:00-15:21

キンドリリングてんかんモデルにおける情動様行動の解析

武智 研志 徳島大学病院 臨床試験管理センター

8, 15:21-15:42

冠動脈疾患と可溶性グアニル酸シクラーゼ

田和 正志 滋賀医科大学 薬理学講座

座長 池田 康将 (徳島大学)

9, 15:42-16:03

HSP72結合解析を用いた抗癌剤耐性因子の同定

塩田 正之 大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学

10, 16:03-16:24

内毒素症性急性腎障害における脾臓由来高貪食能細胞の役割

中野 大介 香川大学医学部 薬理学教室

11, 16:24-16:45

エキソソームによる細菌感染の連鎖反応

岡 真優子 京都府立大学大学院生命環境科学科 食環境安全性学

16:45 閉会の辞 三浦 克之

敬称略



学会・研究会発表

第 45 回日本心脈管作動物質学会、2 月 5・6 日、徳島

高血圧ラットにおける血中エキソソームの内皮細胞への役割

泉 康雄、櫻井 絵未、岡 真優子、田中 昌子、塩田 正之、岩尾 洋、三浦 克之

第 89 回日本薬理学会年会、3 月 9-11 日、神奈川

ゲムシタビン耐性膀胱癌における HSP72 結合タンパク質の同定

田中 昌子、大塚 明日香、高橋 克之、泉 康雄、塩田 正之、三浦 克之

SDF-2 はオキサリプラチン耐性に関与する

大塚 明日香、高橋 克之、田中 昌子、泉 康雄、岩尾 洋、塩田 正之、三浦 克之

Normalization of tumor blood vessel induced by neovascularization drug.

松永慎司、小山哲史、井口道代、今西正樹、富田修平

第 80 回日本循環器学会学術集会、2016 年 3 月 18-20 日、宮城

Cardioprotective Effect of Linagliptin independently of Dipeptidyl Peptidase-4 in Rat Myocardial Infarction Model

Takehiro Yamaguchi, Takanori Yamazaki, Yasuhiro Nakamura, Kenei Shimada, Minoru Yoshiyama, Yasukatsu Izumi.

第 129 回日本薬理学会近畿部会、6 月 24 日、広島

腎線維化における HIF-1 の役割

三浦 克之、立石 悠、壁井 和也、田中 昌子、塩田 正之、富田 修平

熱ショックタンパク質 72 複合体の単離による血中微量タンパク質の道程

塩田 正之、田中 昌子、三浦 克之、富田 修平

第 36 回心筋梗塞研究会、7 月 2 日、東京

急性心筋梗塞に対するヒト IL-11 製剤オブレルベキンをもちいた新規心筋保

護治療に関する研究

葭山 稔、泉 康雄、仲川 将志、能仁 信一、野元 陽太、田村 聡一郎、藤尾 慈

European Society of Cardiology Scientific Session 2016 in Roma 8月27-31日

Macrophage-derived exosomes under hypertensive conditions cause inflammation in endothelial cells

Yasukatsu Izumi¹, Takehiro Yamaguchi, Mayuko Osada-Oka, Masayuki Shiota, Masako Tanaka, Katsuyuki Miura, Shuhei Tomita, Hiroshi Iwao

第64回日本心臓病学会学術集会、9月23日、東京

急性心筋梗塞に対するIL-11製剤オプレルベキンを用いた心筋保護治療

野元 陽太、仲川 将志、泉 康雄、能仁 信一、坂本 勇也、水谷 一輝、白井 信幸、杉岡 憲一、高木 雅彦、大和田 康子、前田 真貴子、中谷 大作、朝倉 正紀、藤尾 慈、葭山 稔

第130回日本薬理学会近畿部会、11月19日、京都

SDF-2はHsp72により発現が保持されることでオキサリプラチン耐性に関与する

大塚 明日香、田中 昌子、高橋 克之、塩田 正之、松永 慎司、富田 修平、三浦 克之

第39回日本分子生物学会年会シンポジウム1PS8低酸素バイオロジーの最前線ーその分子機構から疾患までー、11月30日・12月2日、神奈川

血管リモデリングにおける低酸素応答性転写因子HIF-1 α の役割

富田 修平

第37回日本臨床薬理学会、12月1-3日、鳥取

間歇的低酸素負荷にともなう心筋リモデリングに対する選択的Xa阻害薬rivaroxabanの影響

坂井 伸次、富士原 あゆみ、近藤 俊樹、藤井 健治、大丸 礎仁愛、今野 秀樹、加藤 隆児、井尻 好雄、泉 康雄、葭山 稔、林 哲也

低酸素負荷に伴う心筋リモデリングに及ぼすVEGFR2チロシンキナーゼ阻害薬Sugen5416の影響

橋本 知明、近藤 俊樹、富士原 あゆみ、大丸 礎仁愛、藤井 健治、今野 秀

樹、加藤 隆児、井尻 好雄、泉 康雄、葭山 稔、林 哲也

第 26 回日本循環薬理学会、12 月 2 日、長野

大動脈瘤形成における平滑筋由来 HIF-1 α の役割

今西正樹、松永慎司、石澤啓介、玉置俊晃、富田修平

第 24 回日本血管生物医学会学術集会シンポジウム The roles of vascular remodeling in tissue hypoxia、12 月 10 日、長崎

Role of hypoxia-inducible factor-1 α in vascular remodeling.

Shuhei Tomita

論文業績

Takahashi K, Tanaka M, Yashiro M, Matsumoto M, Ohtsuka A, Nakayama KI, Izumi Y, Nagayama K, Miura K, Iwao H, Shiota M. Protection of stromal cell-derived factor 2 by heat shock protein 72 prevents oxaliplatin-induced cell death in oxaliplatin-resistant human gastric cancer cells. *Cancer Lett.* 378: 8-15,2016

Tanaka M, Shiota M, Nakao T, Uemura R, Nishi S, Ohkawa Y, Matsumoto M, Yamaguchi M, Osada-Oka M, Inagaki A, Takahashi K, Nakayama KI, Gi M, Izumi Y, Miura K, Iwao H. Identification of low-abundance proteins in serum via the isolation of HSP72 complexes. *J Proteomics.* 136: 214-21,2016

Imanishi M, Chiba Y, Tomita N, Matsunaga S, Nakagawa T, Ueno M, Yamamoto K, Tamaki T, Tomita S: Hypoxia-inducible factor-1 α in smooth muscle cells protects against aortic aneurysms. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 36:2158-2162,2016

Nakagawa M, Owada Y, Izumi Y, Nonin S, Sugioka K, Nakatani D, Iwata S, Mizutani K, Nishimura S, Ito A, Fujita S, Asakura M, Maeda M, Fujio Y, Yoshiyama M. Four cases of investigational therapy with interleukin-11 against acute myocardial infarction. *Heart Vessels.* 31: 1574-1578, 2016

Osada-Oka M, Shiota M, Izumi Y, Nishiyama M, Tanaka M, Yamaguchi T, Sakurai E, Miura K, Iwao H. Macrophage-derived exosomes induce inflammatory factors in endothelial cells under hypertensive conditions. *Hypertens Res.* [in press]

富田修平, 木平孝高, 玉置俊晃『低酸素と生活習慣病』 炎症と免疫 24-4号 26-31,2016

特許出願 2016-171299・富田修平・松永慎司『抗癌剤の抗腫瘍効果の増強剤、癌治療剤、及び癌治療用医薬組成物』公立大学法人大阪市立大学、2016年9月1日

今年の出来事

今年は富田修平先生が分子病態薬理学教室の第四代教授に就任され、新たなスタートを切った年です。

今年を振り返っての出来事をご報告いたします。

3月

- 渡邊綾乃さん、櫻井絵未さんが修士課程を修了し、新たな道を歩み始めました。
- 薬剤部から出向されていた研究生の高橋克之君が医学博士を取得されました。
おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。
- 薬効安全性学、特任助教の田中昌子先生が大阪市医学会賞を受賞されました。
おめでとうございます。
- 泉康雄准教授が退職され、高石加茂病院の院長に着任されました。
長い間、教室のためにありがとうございました。新天地での御活躍を祈念しております。
- 修士の卒業生を中心に泉康雄先生の壮行会を開催しました。
当日はお忙しい中、遠くは関東、新潟からもご参加いただきました。懐かしい顔ぶれが揃った中、泉先生の嬉しそうな顔が印象的でした。二次会の教室飲みまでほとんど全員の方にお付き合い頂きました。参加者の皆さん、ありがとうございました。

4月

- 鳥取大学より、富田修平先生が教授として着任されました。
新たな教室としてスタートを切りました。
- 岩尾洋先生が四天王寺大学学長に就任されました。
あまり無理をせず、ご活躍されることをお祈りしております。
- 大学院修士課程に、近畿大学生物理工学部出身の塩谷一史君が入学されました。

6月

- 富田修平先生の教授就任祝賀会を開催致しました。
皆様にはご多忙の折、多数ご参加いただきありがとうございました。

7月

- 鳥取大学より、松永慎司先生が助教として着任されました。

8 月

- 第 23 回市大フォーラムを 11 教室参加のもと、開催しました。
暑い中、多数ご参加いただき、活発なご討議をありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。

9 月

- 西田行栄さんが実験助手として着任されました。

10 月

- 泌尿器病態学所属の西出峻治先生が学位取得の基礎研究のために出向して来られました。

11 月

- 大塚明日香さんが薬理学会近畿部会にて優秀発表賞を受賞しました。
大塚さん、田中先生、おめでとうございます！

引き続き、同門会の先生方にはご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

今年度メンバー（12 月現在）

分子病態薬理学

教員	教授	富田 修平（4 月着任）
	講師	塩田 正之
	助教	松永 慎司（7 月着任）
大学院生	博士課程 5 年	北 和晃（泌尿器病態学）
	博士課程 3 年	西出 峻治（泌尿器病態学）
研究生		高橋 克之
実験助手		西田 行栄
秘書		藤田 明子

薬効安全性学

教員	教授	三浦 克之
	特任助教	田中 昌子
大学院生	博士課程 4 年	壁井 和也（泌尿器病態学）
	修士課程 2 年	大塚 明日香
	修士課程 1 年	塩谷 一史



